

学校給食に思う



オカザキ製パン社長
早川 勝博 氏

教育随想

学校給食の歴史は、明治二十二年山形県鶴岡市の私立忠愛小学校で、貧困児童を対象におにぎり・焼き魚・漬物が無料で出されたのが起源とされています。戦後の昭和二十二年、全国の都市部で、児童約三百万人に対し、ララ（アジア救済公認団体）寄贈食料品による脱脂粉乳ミルク・トマトシチューなどが供されました。その後、昭和二十七年に完全給食が全国の小学校を対象に実施されました。当時の代表的な献立は、コッペパン・脱脂粉乳ミルク・鯨肉の竜田揚げでした。

昭和四十三年、学習指導要領の改訂で、学校給食が「学級指導」の領域に位置づけられ、教育活動としての給食になりました。

昭和五十一年には米飯給食が正式に導入され、給食のメニューの幅は飛躍的に広がり、平成になってからは、セレクト給食やバイキング給食など多彩な方式を取り入れるところもあります。また、「食育」意識の向上から、学校給食のあり方は特に注目をされるようになり、地産地消の観点からも地元で取れる農産物の利用が盛んになってきています。

私が学校給食を経験したのは、ちょうど完全給食が導入された後です。パン・脱脂粉乳ミルク・鯨肉、食器はアルマイトと先割スプーンというころです。給食時間内に食べきれない子は、放課後、居残りで冷たくなった給食を食べたり、休んだ子の家までパンを持って行ったりした時代です。今の給食を羨ましく思うというより、何か懐かしさを感じます。



学校給食は、一日三食中の単なる一回という位置付けでなく、時代を反映しながら教育の重要な要素を担っている、まさに「食育」の場といえるのではないのでしょうか。

（はやかわ まさひろ）



平成20年5月1日

5月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	■
オカザキ製パン社長 早川 勝博氏	
この人に聞く	■
よきこいチーム「きらら岡崎」代表 株式会社「六本木」代表取締役 竹内 桂子氏	
羅針盤	■
前生活・総合指導員 中村 公治	
ふれあい	■
矢作北小 北 中 安部 朋彦 杉浦 諭	
特集	■
岡崎市中学校総合体育大会に かける思い	
お知らせ	■
フォト・ヒストリー	■
国民学校のころ（昭和16年）	
この本を	■

ふるさとシリーズ この人に聞く



大好きな岡崎を 盛り上げるために

よさこいチーム「さらら岡崎」代表
株式会社「六本木」代表取締役

竹内 桂子 氏

「よさこいは、年齢に関係なく誰もが取り組める踊りです。私もよさこいに携わってから、心と体が健康になっていくように感じます。」と、笑顔でよさこい踊りの魅力を語られる竹内さん。

竹内さんは、岡崎で初めてよさこい踊りのチーム「さらら岡崎」を結成し、日舞西川流師範の経験を生かして、チームを作り上げてきた。そして、そのチームと共に岡崎のよさこい踊りを取り仕切り、その踊りの場をプロデュースされている。「七年前、私は肺を患って入院しま

した。苦勞を重ねながら仕事一筋で生きてきたのですが、その入院でそれまでに味わったことのないむなしさを感じてしまったのです。心の治療も兼ねて、全国のお祭りを見て回りました。そのとき、よさこい踊りに出会い、これだと思ったのです。」当時、竹内さんは本業のレストラン業だけでなく、岡崎商工会議所の女性部の方と一緒に岡崎の街作り活動の仕事にも携わっていた。「チームの結成は、岡崎の街作りの一つとして始めました。しかし、初めは踊る場所もなく、観光夏祭りの五万石踊りの狭間の十分しか時間をもらえませんでした。本当にわずかな時間でしたが、たくさんのお客さんが私たちの踊りを見に来てくださることをよく覚えています。」



「私のチームは、岡崎にこだわって曲を作り、踊りもそのように編成しています。よさこいで岡崎をPRし、私たちが岡崎の曲で踊ることに喜びと誇りを感じているのです。」地域に密着した取組が評価され、今年も六月に北海道で行われる「よさこいソーラン祭り」に中部代表として出場する。また、昨年、市民に発表された岡崎の総踊り曲「二天濤快」も、実は竹内さんの発案により創作が始まった。そして、その完成には多大なご尽力をされている。「父が、生涯貫く仕事をもつことはすばらしいことだと教えてくれました。昔は本業のことしか考えられなかったけれど、今ではよさこい踊りを通して、岡崎のお祭りをさらに盛り上げていきたいのです。そして、「二天濤快」ができ、私は夢を一つ叶えることができました。」

竹内さんの熱い思いは続く。「私は、岡崎の皆様に育てていただきました。だから、これからも感謝の心を忘れず、自分にできることをしていきたいのです。次は、本場の四国（高知）の華麗で勇壮なよさこいを、岡崎の街の中で皆さんと踊ってみたいと思っています。」

次、の夢をさわやかに語られる竹内さんの姿に、よさこい踊りと岡崎を愛する心意気を感じた。

氏名 竹内 桂子 氏
生年月日 昭和二十二年十二月二十九日
住所 中町六丁目一七



新しい総合的な 学習の時間の構想

前生活・総合指導員 中村 公治

今年の三月、新学習指導要領が告示された。今回の改訂では、総合的な学習の時間の時間数削減が示され、注目を集めた。これをどう受け止めるか。総合的な学習が担う探究型の学習は、「生きる力」を育てるために重要なものである。その認識は、今回の改訂においても変わりはない。ただし、これまでは、その趣旨が周知されていたとは言いがたい。この機会に、総合的な学習の原点に立ち返って、その在り方を考え直してみたい。

体験活動が基盤であるとは言え、それだけでは学びは深まらない。体験活動によって得られた情報を互いにかかわらせ、分析・考察する学習活動を位置づけることが重要である。時間数が少なくなったことは確かに

あせらず、急かさず

矢作北小学校 安部 朋彦

人前で話すことが苦手な二年生のA子。普段は友達と活発に談笑しているのだが、授業や大人の前では話せなくなる。

四月。朝の会でスピーチの順番が回ってきたA子はやはり黙っていた。喉までことが出ていたのは見て感じられる。本人も話したいのだが、話せないのだ。「黒板に字を書いてみたら」という私のことばに、A子は少し考え込んだ後、ゆつくりとチョークで字を書いた。友達からの質問にも、字を書いて答えた。スピーチが終わると、友達から拍手を受け、はにかみながら席に戻るA子。

そんなA子のことをクラスの友達も理解をし、支えていった。次のスピーチのときには、数人の友達も前に出て、チョークで書いた文を読んだ。国



語の授業では、周りの子が一緒に音読をした。A子の口も少しずつ開いてきた。

三月。生活科の発表会で、「わたしは『ハンガリー舞曲』がひけるようになりました。」

友達と一緒にではあるが、はっきりと聞こえる声で発表したA子。あせらず、急かさず。いつかA子と会話できる日が楽しみである。



色紙から伝わった思い

北中学校 杉浦 諭

吹奏楽部の主顧問を初めて任せられたときのことだった。朝練習での遅刻があまりに多いため、活動する意味がないと感じ、朝練習を停止した。すると、副部長のA子が、「部活動の時間が短いので、授業後に特別練習がしたいです」と言ってきた。

私は、「朝練習すらまともにでき

ない状態で特別練習をしてもだめだ」とつき

返した。すると、「先生は本当にいい演奏がしたいと思

っているんですか。私には信じられませんが」とA子は言い、去っていった。

熱意はあるものの、時間の使い方を知らないと感じた。それ以後、午後の部活動の中で、「時間を自分で作り出していきなさい」と何度も伝えてきた。すると期待通り、コンクールが近づくにつれて自主的に練習する生徒が増えていった。その中にはA子の姿もあった。私の生徒たちへの指導は、次第に熱が入っていった。

コンクールも終わり、部活を引退するときにもらった色紙から、A子の思いの変化を知った。

「先生には、自分から練習時間を作ろうともしないのに文句を言っていました。あの後、自分の練習に対する甘さに気づきました。今は感謝をしています」と。彼女の成長を見る事ができた色紙になった。



残念ではあるが、これまでの学習活動を再点検し、ひきしまった総合的な学習に再生するための大きなきつかけとなると考えたい。

また、もう一つ大きな改善点がある。それは、総合的な学習の取り扱いについて、新たに章立てされたことである。これによって、今までなかった学習指導要領の解説書が出されることになった。そこには、今まで各学校に任されていた「目標」や「育てようとする資質や能力及び態度」についての視点が例示されることになる。また、学習内容についても具体例が示されることであろう。このことは、大きな前進であると私はとらえている。解説書は六月中旬に発行される予定らしい。ただし、それは、あくまで例示であって、その目標や内容は、子供の実態に応じて、各学校が主体的に決めていくことに変わりはない。

これまで、岡崎の総合的な学習の実践は、全国からも注目され、高い評価を受けてきた。しかし、それにおおることなく、解説書の内容を受け、これまでの実践を精査したい。そして、新たな総合的な学習の創造に努めたい。



▲平成19年度 入場行進 (岡崎市民球場)

五月に行われる「岡崎市中学校総合体育大会」(以下総体とする)。本年度は、第五十二回を迎える。

昭和三十二年、日本は高度経済成長期を迎えようとしていた。岡崎市では、新学制十周年を記念し、オリンピックや国民体育大会のような中学生によるスポーツの祭典を実施したいという声が高まり、その年に第一回総体が行われた。開会式の会場は、岡崎公園グラウンド。市の中心部が会場であったこともあり、一部の学校を除き徒歩で移動をした。その後、生徒数の増加とともに、岡崎公園グラウンドでの実施が困難になった。昭和六十二年度から県営グラウンド、平成十八年度からは中央総合公園で開催されるようになった。

一年生を中心に結成される応援団。行進練習に励む選手団。そこには、競技以外でも「他校に負けたくない」という学校全体での取組が感じられ、中学生ならではの真剣さが伝わってくる。総体の意義の一つに、一・二年生に三年生の勇姿を見せたいということもある。苦しさ、つらさを乗り越える姿から学ぶものは、どんな美辞麗句よりも価値がある。多様な考え方が認められる現代社会においても、大切にしたいことである。

時代が変わった今でも、総体にかける中学生の思い、わたしたち教師の願いは変わることはない。今年も汗と涙の感動を味わわせてくれることだろう。

生みの苦しみ 中学校総合体育大会

今日では、総合体育大会も岡崎の年中行事の一つになって盛大に行われているようですが、最初はなかなか問題があつて難産でした。

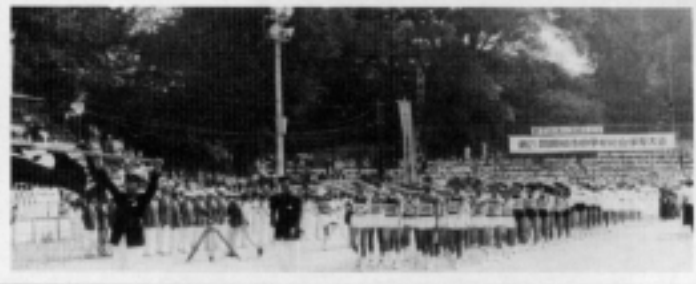
新学制十周年の記念行事として、中学校の職員と生徒会員が一回に会して記念式典と体育大会を挙行したら、という案をわたしが提案したように思います。岡崎公園へ集合するのに、交通機関を利用せねばならない校長さんから、強い反対意見が出ました。「交通費を市教委がもつたら参加する」。もつともな意見だったが、補正予算で要求することもできなかった。ひたすら参加されることを念じて意見を押し通していたが、「強引に、全生徒が一回に会しての大会の雰囲気は他では得られない卑しい体験だ」というような屁理屈に近いことを言つて、無理に了承してもらつたことを覚えている。(中略)

強引だったかもしれないが、いい岡崎の一つの行事じゃないですか。公園運動場を租め尽くしての大会は、わたしは非常に楽しかったね。「四月に中学校へ入学した生徒が五月に行われる総合体育大会の雰囲気を経験して、俺は中学生になったんだ」という自覚と、プライドをもつんじゃないですか。今まで小学生だった功やが「」確か、鈴村教育長さんがそんなことをおっしゃつていたので記憶しています。

(元岡崎市教育長 羽田 洋先生)

「岡崎の教育」一〇の三十年より抜粋

第1期 岡崎公園グラウンド



▲昭和52年度第21回入場行進

中学生の頃の思い出

(岡崎公園グラウンド)

中一の総体。東海中は名鉄電車で移動した。集合時間に遅れてしまい、本宿駅にはだれもいない。初めての総体は、一人で電車に乗ることからスタートしたのだ。

会場は、二〇〇メートルトラックを囲むようなスタンドが人でびっしりと埋まっている。すり鉢状だったので、歓声とどよめきがうずを巻くようなすごい雰囲気だったことを覚えていいる。

(福岡中 太田 勲先生)

第2期 県営グラウンド



▲応援風景



▲昭和62年度 第31回入場行進

引率の苦労

(県営グラウンド)

早朝より学校へ集合し、いくつもの部活動が同じバスに乗って行く。レギュラーを座らせ、会場へ向かう。県営グラウンドでの開会式終了後、部員全員が徒歩で英中学校へ向かった。会場に着くと、ウォーミングアップもそこで試合に臨まなければならなかった。

(六ツ美中 松浦修司先生)

第3期 中総グラウンド



▲平成18年度 第50回開会式(雨天のため体育館にて)



▲卓球競技

中総での総体開催の良さと目的
総体メイン会場を中央総合公園に移したことで、次のような良い点があったと考える。会場のすぐ前までバスをつけることができ、徒歩移動の負担が大きく減った。また、球場という造りのおかげで行進が栄え、行進選手と応援団の一体感が得られた。さらには、応援競技の選択の幅が広がったことにより、市内中学生、特に、一年生の部活動に対する意識が高まった。

(前保健体育科指導員 野田 豊先生)



▲平成19年度 第51回開会式



▲応援風景



▲野球競技

お知らせ



●教科書採択

○教科書展示会の開催

教科書展示会が、県内二十
一か所の教科書センターで開
催される。

教科書は、通常四年に一度
採択替えが行われている。小
学校は平成十六年度、中学
校は平成十七年度に採択替え
が行われており、本年度は平
成二十一年度から使用される

小学校用教科書の採択替えが
行われる。ただし、十九年度
の小学校教科書検定には発行
者から検定申請が出されな
かった。したがって、基本的
には現在使用している教科書
になる。

中学校は、本年度検定の年
にあたる。採択替えは来年度
であり、二十年度はこれまで
使用している教科書と同一の

ものを使用することが法律で
定められている。

県教育委員会では、教科書
採択の調査研究に役立てると
ともに県民の教科書に対する
理解や関心を深めるために、

県内二十一か所の教科書セン
ターで教科書展示会を開催す
る。また、障害のある児童生
徒のための教科書や一般図書
を愛知県総合教育センターで
展示する。

例年、岡崎地区の教科書セ
ンターは岡崎市中央図書館で
開催されていたが、本年度は
図書館移転のため、場所が変
更される。場所や日程につ
いては次の通りである。展示
会場には投票箱が用意されて
おり、教科書に対する意見や
要望を投書できる。

・展示会場（岡崎教科書セ
ンター）

岡崎市教育研究所
岡崎市明大寺本町一の四六

☎二三一〇四一六

・展示期日

平成二十年
六月十六日(月)～二十日(金)

六月二十三日(月)～二十七日(金)

六月三十日(月)～七月二日(水)

・展示教科書

検定済みの教科書

○教科書改訂予定

平成十九年度末に告示され
た新しい学習指導要領が、小
学校では二十三年度、中学校
では二十四年度に全面実施さ
れる。これに併せて教科書が
改訂され、次のような日程で
検定・採択が進む予定である。

・小学校教科書

検定……平成二十一年度

採択……平成二十二年
度使用開始……平成二十三年
度

・中学校教科書

検定……平成二十二年度

採択……平成二十三年
度使用開始……平成二十四
年度

なお、全面実施までの期間
に移行措置が示される。

●教員免許取得

○小・中の一級免許取得

平成十九年度の免許に關す
る申請は、市内で三十七件。
認定講習の応募者は幼・小・
中を合わせて、九十二名が、
一七五の講座を希望した。

・教育職員免許法第九条で、

一種免許状の取得努力義務が
課せられている。また、小学
校・中学校の両方での勤務と
いう人事の方針もあり、小・
中両方の免許を希望している
人が増加している。

現在、隣接校種（小学校教
員なら幼稚園と中学校）の免
許取得で、優遇措置がとられ
ており、ぜひ、小・中の両免
を取得するようにしてほしい。

○免許状の種類

免許状の種類は、主に「専
修」「二種」「三種」の三段階
である。教員を続けながら免
許を取る方法としては、大学
の通信教育で所定の単位を修
得する方法と、認定講習等で
単位を修得する方法がある。

○免許状の申請

免許状の申請には、主に次

の四つが挙げられる。

①上位免許状の申請

②他教科の免許状の申請

③特殊学校免許状の申請

④隣接校種の免許状の申請
在職年数に応じて、必要単
位数が削減されたり、教育実
習が免除されたりしている。

※①の上位免許状申請は、

県が五月から十二月まで
取り扱う。年度内に希望
する場合は十一月末まで
に提出したい。

※②③④の免許を年度内に
希望される方は、一月末
までに提出したい。

○栄養教諭普通免許状

平成十六年より、免許法等
の一部改正に伴い創設された。
平成十九年度は、五名が免許
を取得している。

○教育職員免許法認定講習

申込書は、毎年五月中旬に
配付を予定している。

・口座数は、約二十五講座

・一講座当たり一単位

・講座開催は、八月の指定日

※詳しくは、岡崎市教育委
員会学校指導課 免許担当
までご連絡ください。

●平成二十年年度校長会役員

<p>〈小中学校長会役員〉</p> <p>会長 河村 喜美(城北中)</p> <p>副会長 早川 正春(竜美丘小)</p> <p>小林 國良(額田中)</p> <p>板倉 常治(井田小)</p> <p>大久保幾三(緑丘小)</p> <p>菅原 秀美(河合中)</p> <p>神尾 光伸(梅園小)</p> <p>菅沼 国雄(葵 中)</p> <p>松井 伸市(根石小)</p> <p>山中三江子(美合小)</p> <p>鈴木 由郎(甲山中)</p> <p>酒井 久男(福岡中)</p> <p>長坂 信一(三島小)</p> <p>長坂八重子(愛宕小)</p> <p>勝田 秀明(六美南小)</p> <p>岡田 要(城南小)</p> <p>神尾 義貴(六美中)</p> <p>江坂 良夫(岩津小)</p> <p>野勢 明(小豆坂小)</p> <p>平松 敏明(下山小)</p> <p>三浦みどり(六名小)</p> <p>安藤 眞好(上地小)</p> <p>尾崎 芳信(矢作中)</p> <p>野村 正文(六ツ美中)</p> <p>内田 明夫(竜南中)</p> <p>河合 安男(北 中)</p> <p>野々山宏司(竜海中)</p>	<p>山本 悟(六美中)</p> <p>〈小学校長会〉</p> <p>会長 早川 正春(竜美丘小)</p> <p>副会長 板倉 常治(井田小)</p> <p>大久保幾三(緑丘小)</p> <p>会計監査 長坂 信一(三島小)</p> <p>庶務 松井 伸市(根石小)</p> <p>会計 山中三江子(美合小)</p> <p>会計補佐 安藤 眞好(上地小)</p> <p>〈中学校長会〉</p> <p>会長 小林 國良(額田中)</p> <p>副会長 内田 明夫(竜南中)</p> <p>菅原 秀美(河合中)</p> <p>会計監査 尾崎 芳信(矢作中)</p> <p>庶務 菅沼 国雄(葵 中)</p> <p>会計 鈴木 由郎(甲山中)</p> <p>会計補佐 野々山宏司(竜海中)</p> <p>〈専門委員会委員長〉</p> <p>法制 菅沼 国雄(葵 中)</p> <p>理財 酒井 久男(福岡中)</p> <p>給与 山本 浩二(豊富小)</p> <p>文教 内田 義和(岩津中)</p> <p>進路 太田 恭子(常磐中)</p> <p>研修 山本 悟(六美中)</p> <p>保健 河合 安男(北 中)</p> <p>福安 平松 敏明(下山小)</p> <p>給食 渡辺 邦夫(新香中)</p> <p>生徒指導 坂井 節(東海中)</p> <p>特別支援 安藤 眞好(上地小)</p> <p>広報 高橋 鏡二(山中小)</p>
--	---

●平成二十年年度特別委員会

これまでの特別委員会を見直し、平成二十年度は以下の十四委員会を置き、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。

- ・市民大学運営委員会
- ・月報「岡崎の教育」編集委員会
- ・教員の研修に関する委員会
- ・学校環境緑化推進委員会
- ・情報教育推進委員会
- ・行事・部活動研究委員会
- ・いのちの教育推進委員会
- ・郷土読本編集委員会
- ・小学校英語研究委員会
- ・授業改善委員会
- ・学校評価(OC)委員会
- ・総合教育センター(仮称)特別委員会
- ・子ども科学館(仮称)特別委員会
- ・外国人児童生徒教育推進委員会
- その他の関係委員会等

岡崎市特別支援教育連携協議会(市中学校特別支援学級進路指導委員会)

岡崎市就学指導委員会

岡崎市いじめ・不登校対策協議会

●平成二十年年度研究発表校

- 山中小学校 市委嘱
 - 十月二十二日(水)
 - 「生きる喜びを実感できる山中っ子」人・自然と出会い、かわり合う豊かな体験活動を通して」
- 細川小学校 市委嘱
 - 十月十七日(金)
 - 「二人一人が 生き生き学ぶ 確かに伸びる」細川スタンダードを生かした魅力ある授業づくり」
- 城南小学校 自主
 - 十一月七日(金)
 - 「豊かな人間性を育み、未来を拓く子どもの育成」『絆』づくり活動を中心とした学校文化の創造をめざして」
- 竜海中学校 自主
 - 十一月十八日(火)
 - 「生徒の学ぶ力を鍛える授業の創造」51分を演出する」
- 六ツ美北中学校 市委嘱
 - 六月二十四日(火)
 - 「共に学び合い、互いの成長を喜び合える生徒の育成

●平成二十年度学校訪問

- 「人として生きるための基礎となる力を高める教育課程の創造」
- 岡崎市教育委員学校訪問
 - ・男川小学校 九月 十八日
 - ・緑丘小学校 五月 八日
 - ・竜美丘小学校 九月二十五日
 - ・井田小学校 二月 十二日
 - ・愛宕小学校 二月 五日
 - ・恵田小学校 十月 九日
 - ・矢作南小学校 一月 十五日
 - ・六美中東小学校 一月二十二日
 - ・鳥川小学校 五月 十五日
 - ・大洞河小学校 九月 十一日
 - ・美川中学校 六月二十六日
 - ・葵中学校 十月 十六日
 - ・岩津中学校 十一月 二十日
 - ・梅園幼稚園 一月二十九日
 - ◆指導員合同訪問
 - ・美合小学校 十一月 十三日
 - ・細川小学校 六月 十九日
 - ・矢作北小学校 六月 十九日
 - ・矢作北中学校 十一月 十三日
 - ◆県教育委員会訪問
 - ・広幡小学校 十月 六日
- ※その他に主事訪問を予定している。

・カ
ツ
ト
連
尺
小
坪
井
惠
理
子

国民学校のころ

(昭和16年)

写真提供：岡崎小学校

昭和十六年、岡崎尋常高等小学校は、岡崎国民学校と改称され、この年に太平洋戦争が始まった。昭和十七年、十八年と年々戦争が激しくなった。

昭和二十年、七月二十日の空襲により岡崎市街は一夜にして焼け野原となった。となりの羽根小学校も全焼。このため、羽根小学校の児童と一緒に勉強することになり、児童数も急増加した。教室も足りなく、午前と午後に分けて行う二部授業や、稲荷神社を借りての授業が実施された。長い不自由な時代も、昭和二十年八月十五日、日本の敗戦により終わりを告げた。

フォトヒストリー

岡崎の教育



この本を

- * なげださない 録田 實 ¥1,680
集英社
- * 父親の品格 川北 義則 ¥1,365
ダイヤモンド社
- * 甲子園への遺言 門田 隆将 ¥1,785
講談社
- * 修身教授録 現代に甦る人間学の要諦 森 信三 ¥2,415
致知出版社

- * 話し上手は聞き上手 小川 宏 ¥1,785
清流出版

KY（空気が読めない）のように若者を中心に広まっている造語に、日本語の乱れを指摘する声は多い。

本書は、名アナウンサーとして活躍した著者が、正しい日本語の使い方を紹介したものである。アナウンサー時代に、宮田輝をはじめとする先輩アナウンサーや著名人から学んだ心に沁みる話し方など、読んでいて大変参考になる。うつ病を克服した著者のユーモア溢れる語り口が楽しい。

六ツ美北中 山本 悟

オバマ候補は「チェンジ」を訴えて、新たなアメリカの大統領を目指している。混乱する時代に、その言葉は人々に未来の希望として響く。しかし、学校教育においては単なる「チェンジ」ではいけない。時代をつなぐ「不易と流行」を吟味した「チェンジ」が必要である。

萬葉の花が添えられた五月人形。凛として咲く花の姿に、先人の想いがしのばれる。武士道を通して子育てが行われていた時代。尚武の心をこめて、その花を飾り、子供の成長を祝った。

今、私たちは先人の精神を受け継ぎ、教育を通して子供たちの健やかな成長を願う。

シオ スア

明るい日差しのもと、真剣なまなざしで対象を食い入るように見つめる子供たち。絵をかく会に取り組む姿がそこにある。しかし、当日はもちろん、そこまでは、教師の子供一人一人に対するいろいろな指導がある。常に子供を伸ばそうと模索している教師の姿が見え隠れする。

スポーツに熱中する姿は、それだけで感動を覚える。迎える第五十二回総体。競技に、最高のパフォーマンスを見せられることだろう。

中学生の思いは、天候に左右されるようなものではない。ただ、できるなら、さわやかな五月晴れになるよう祈りたい。

